

公表

事業所における自己評価結果

事業所名

放課後等デイサービス こくぶ太陽の子

公表日 令和7年 3月 10日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		・ スペースについては、活動内容や人数によって場の設定(人数を分ける、室内・室外活動にする。カーテンで部屋を仕切る)等の工夫をしています。お子さん方のなかでも男女の関係性や距離感について課題がありますので、空間の使い方、相手との距離についてはお子さん方にも伝えながら過ごしています。今後も窮屈にならないよう場の設定、スタッフ配置に気をつけながら過ごしていきたいと思います。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4		・ 個別対応が必要なお子さんが複数いらっしゃる場合は、多めにスタッフを配置したり活動内容を考慮し安全に過ごせるようにしています。 ・ 緊急的にスタッフが不足した際は、心とで連携を取り、事故なく過ごすよう体制作りが整っています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく 構造化された 環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		・ お子さんの体形や特性に応じ、個別で合理的配慮を行っています。取りやすい位置に踏み台やホワイトボード、イラストカード等設置しています。 ・ 視覚的に理解できるよう環境構成に配慮しています。設置時は、危険性がないかお子さんの動きを予測するようにしています。またお子さんの実際の動きを見て環境設定を変えることもあります。 ・ 生活のなかで、周りがいつも気付いてくれる状況でないこともあります。困り感の発信ができるよう日々の支援で取り組んでいます。 ・ 支援前後に消毒をし、終わりの会後はお子さんと一緒に掃除をしています。 ・ 食事や机の上活動時、机の消毒をしています。机や床にゴミが落ちていたり、汚れてい

	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		・ 長ずい、机の上活動時は、机の上用紙として使います。机の上にゴミが落ちていた時、気づいてしまった時の対応もお子さん自身、身に付けられるよう一緒に処理をする等の取り組みを行っています。 ・ お子さん自身いつでも消毒ができるよう、多めに消毒液（手指用・次亜塩素酸水）を設置しています。 ・ 送迎後は、忘れ物の確認も含めて車内の消毒をしています。送迎中も換気をしながら空調管理に努めています。 ・ ゴミ箱は、汚れたマスク等不衛生の物を捨てるゴミ箱と日常で使うゴミ箱と分けています。 ・ 空間については、①と同様です。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		・ クールダウン室等、お子さんが自由に使えるようになっています。複数のお子さんが個室を使える構造ではないため、プレイルームをカーテンで仕切る等その場で対応しています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		・ 業務改善について話し合う日を設定しているわけではありませんが、日々の昼礼時に業務の取り組みの見直しや改善を行う仕組みが整っています。昼礼時以外でも、気付いた時にお互い言える環境であります。取り組み内容については、休みのスタッフとも情報共有できるようラインを活用しています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・ 毎月の御意見に併せ、保護者様とのやり取りをスタッフ間で共有し、業務改善すべき点は対策を考え取り組むようにしています。通信作成時も評価表の項目を意識し構成しています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・ 社長との個別面談を設けています。毎日の昼礼時やミーティング等機会を捉えスタッフからの意見を聞きだし、業務改善に結びつけています。一緒に働く仲間として、業務改善に関わらず日頃からコミュニケーションを取るようにしています。 ・ 業務量が増え、時間の確保が年々難しくなっています。常日頃から業務や現在の取り組みについて見直し、改善を図っていきたいと思います。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		・ 保護者評価表や毎月の御意見、連絡帳、送迎時の引継ぎ等で把握に努めています。スタッフ個人個人評価されている自覚をもちお子さん、保護者様と関わるようにしています。また各事業所の交流会等、支援の手立てや接し方も業務改善の気づきの一つになるので、個人で振り返り質の向上に努めています。 ・ 会議や話し合いのなかでも、保護者評価表の観点から取り組みを考える等、意識しています。

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	2	・10月に霧島市中央消防署にて、普通救命講習を全スタッフ受講しました。 ・動画視聴にて虐待防止・権利擁護研修を行いました。 ・地域での暮らしを守る研修会にも参加し、警察官とも情報共有・連携を図っています。 ・案内がきた研修には参加するようにし、事業所にて伝達研修を行うようにしています。 ・事業所内研修については、計画通りに進めることが難しくなっています。研修の内容や流れを考え直していきたいと思います。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	1	・支援プログラムにつきましては、ただいま準備中でございます。令和7年度から義務化になりますので、完成後周知していきます。支援プログラムが新たに加わりましたが、現在行っていることを紙面化したものですので、今後も太陽の子で行っている活動を継続し、お子さん方の自立に結び付けたいと思います。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		・保護者様との面談、スタッフ間でのモニタリングをし課題の把握に努め計画書に反映しています。お子さんの成長・課題をスタッフ間で情報共有し定期的に話し合っています。昔と今の比較に話が盛り上がりしてしまうこともあり、お子さん方のたくさんの成長に気付かされます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		・計画時は、スタッフ間で意見交換をし実態把握に努めています。現状把握のため、様々な意見がでますが、お子さんや保護者様に対しては配慮しお伝えをするようにしています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		・支援内容については、スタッフ間共通理解し支援に臨んでいます。当日の昼礼時にもお子さんの課題や支援内容(ねらい)等、再認識しています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		・ツールはありますが、日々のお子さんの様子(記録)や支援に関わるスタッフから意見を拾い集め確認しています。お子さん方の様子を見て、場を設定したり、活動に取り入れながら行動分析・評価・実態把握につなげています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		・お子さんの実態に必要な支援内容を考え、各項目ごとに振り分けられています。自立に向けて、すべての項目に関連するものだと思います。家族支援や関係機関との連携は、今後も力を入れていきたいと思います。

17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		・ 担当のスタッフが当日の活動内容を考えていますが、出勤スタッフで意見を出し合い活動を実行するようにしています。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		・ 定期的に取り入れないと忘れてしまうこと（避難訓練や性教育）等ありますので、固定化している活動もあります。 ・ 活動内容は、前回利用日と被らないように記録を振り返り決めています。当日のお子さんの実態や近況のコンディション等をスタッフ間で考えて、1人のお子さんにねらいを当てた活動を取り入れることもあります。その他、心和の郷と連携を取り、就労体験やスタッフが考えたオリジナルの活動等、バリエーション豊かな活動計画を立てています。難しい活動でも、手立てや具体物を工夫し、全員が参加できるように考案しています。 ・ 保護者様からも「面白そうな活動!」「どうやって作るんですか？」等、関心を持ってくださると私たちも嬉しく、モチベーションにつながっています。今後も遊びのなかで苦手なことに触れ、お子さん方のできた経験を増やしていきたいと思います。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		・ お子さん一人ひとり個別活動、集団活動にねらいを定めて個別支援計画書を作成しています。放課後は時間が限られていますので、集団活動を主に取り組んでいます。そのなかでお子さんの状況により個別で対応することもあります。当日のメンバーやお子さんの実態によっては、個別に課題活動に取り組む日もあります。当日のお子さん方のコンディション等見て支援をしています。 ・ 御家庭での困り事等、保護者様からの相談を受け、お子さんと話をする時間を設定しお子さんと振り返りをしたり、対策を考える等も取り組んでいます。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		・ 支援前後に振り返りを行い、お子さんの様子を共通理解しています。各スタッフ様々な視点から支援について意見交換し、翌日の支援につなげています。話の内容によっては、当日の内に保護者様へ連絡をすることもあり、はやと太陽の子とも連携を図るようにしています。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		・ 担当スタッフだけではなく、全スタッフでお子さん一人ひとりの記録をとるようにしています。日々の記録は全スタッフで確認をするようにしています。翌日の昼礼時に前日のお子さんの様子を振り返り、行動の意味を考え支援内容の見直し→取り組みにつなげています。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		・ 半年ごとに見直しをし個別支援計画書の作成をしています。保護者様との面談前に、スタッフ間でモニタリングをし実態把握に努めています。

	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4		・ ① 自立支援と日常生活の充実のための活動, ② 創作活動, ③ 地域交流の機会の提供, ④ 余暇の提供全て含めた総合的な支援を行っています。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		・ 活動のなかで、お子さん方に自己選択・自己決定をしてもらいながら活動を進めています。具体物やカードで意思表示ができるようお子さんに応じ工夫しています。またお子さん方の幅を広げるため、お子さんが選択した後に提案やきっかけ作りをする等も支援として取り組んでいます。
関係機関や保護者と	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		・ 管理者が出席し、関係機関との連携を図っています。会議前は、スタッフ間でモニタリングをし会議後は内容の伝達を行っています。 ・ 定期的にモニタリングがあるお子さんとモニタリングを開催しない相談支援事業所もございますので、お子さんの様子等こちら側からお伝えし連携を図るように努めています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1	・ 必要に応じ、こちら側から連携を取るように努めています。 ・ 関係機関との連携については、霧島市障害児通所支援事業所連絡会にて情報交換や連携を図らせていただいています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		・ 保護者様を通じて、情報共有しています。行事予定等HPにて確認をしています。緊急時は、迅速に連絡をするようにしています。利用のキャンセル時等、連絡体制がまだ定着されていない御家庭もいらっしゃいますので、連絡体制を周知しながら有事の際に備えていきたいです。 ・ 学校側との情報共有が少なくなってきたと感じます。太陽の子として、引き続き情報交換会を実施しながら、学校側との連携を高めていきたいと思っています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1	・ 相談支援事業所からいただく基本情報にて把握しています。気になることがあった際は、保護者様へお尋ねをし理解に努めています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		・ 卒業前の会議等で、支援内容や手立て等情報提供しています。卒業後も保護者様と連絡を取り、環境の変化後の様子確認をする等、継続した保護者支援を心掛けています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	1	・ 保護者様から御相談を受け、事業所では解決できない案件につきましては、関係機関と連携を図り助言をいただいています。状況によっては、解決に至らないケースもあるので複数の機関へ相談をさせていただく等、多面的な視点から助言をいただいています。今後も様々な事業所と連携を深め、問題解決へ結び付けていきたいと思っています。

の 連 携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	・ 交流のみを目的とした活動は行っていませんが、近隣の公園や公共施設に出掛けることで二次的に交流する場面があります。交流をするにも、相手側の保護者様や事業所と同意を得なければ交流が難しくなっています。今後も心としてできる交流を続けながら、地域との交流の機会も捉えていきたいと思います。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	2	2	・ 直接的な参加はしていませんが、協議会に関連する会議やアンケートにて意見を出し合うようにしています。協議内容等の議事録は、確認するようにしています。 ・ 霧島市障害児通所支援事業所連絡会に参加しています。そのなかで①各事業所の意見の吸い上げ②他事業所の取り組み及び情報③研修の開催④事例検討⑤啓発活動⑥教育と園との連携⑦保護者の意見の取りまとめグループに、各スタッフ所属し、討議しています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		・ 引継ぎ時や面談時等に、お子さんの様子や支援内容についてお伝えをし、情報交換(共有)するように努めています。連絡帳もツールの一つですが、未記入のお子さんもうらっしやり太陽の子のコメントを読まれているのか確認が取れないこともあります。確認していただけたら、サイン等していただけるとありがたいです。 ・ お子さんの自立のため御家庭と連携して取り組んでいただきたいことはございますが、保護者様自身時間の確保が難しいことから、お子さんが取り組むことができていない現状もあります。生活する上で、実践の場は必要でありますので、引き続き御家庭と共通認識しお子さんの支援について向き合っていきたいと思います。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		・ 研修の案内を公式ラインにて配信しています。性教育や施設見学等、保護者の皆様と一緒に研修をいたしました。今後も参加率が高められるような内容を考えていきたいです。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		・ 契約時や内容の変更時は、都度お伝えをしています。直接的に説明ができない時は電話や引継ぎ時に説明をする等対応しています。説明が不十分にならないよう、今後も丁寧な説明を心掛けていきます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		・ 計画作成時は、保護者様と面談をしお子さんの実態を確認し、意向を計画書に反映しています。モニタリング時は、お子さんとも話をし課題について一緒に振り返ったり、心境の確認をしています。今後もお子さん、保護者様と話し合いの場を設け、一人ひとりに合った個別支援計画書作成を目指していきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		・ 最近では、直接お子さんに個別支援計画書の説明をし一緒に課題の確認や対策を考え、御署名をもらう取り組みをしています。保護者様にも内容を確認していただき、同意をいただいています。

39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	1	・ 日々の保護者様とのやり取りのなかで、困り感を共感し、悩み事が軽減されるような手立てやアドバイスをさせていただいています。その場だけではなく、長いスパンで一緒に考え、問題解決に導いていければと思います。
40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4		・ 定期的に親子レクリエーションの企画はしていますが、なかなか参加率が増えないのが課題です。今後も交流のきっかけになるような楽しい企画を考えていきたいと思っています。 ・ 面談時は、きょうだいとの関係性等もお聞きし、御家族全体のサポートができるよう心掛けています。
41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		・ 契約時に苦情の申し立てについて説明を行っています。御意見をいただいた際は、迅速に対応をし対策をスタッフ間で考え、毎月の通信にて周知しています。お子さんから話が合った場合は、スタッフ間で共有し支援の振り返りを行っています。 ・ 御意見の内容によっては、お子さん自身と話し合い対策を考え取り組んだり、御家庭へ御協力をいただいています。
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		・ 毎月の通信以外にもお知らせがあった際は、その都度公式ラインにて発信しています。お伝えしたいことを通信に掲載していますが、各御家庭へ情報の伝達が行き届いていないこともあり、直接送迎時に確認、お伝えし直すこともあります。一度の周知だけではなく、定期的に（普段の取り組みやお願いから）お知らせをし連携を図っていききたいと思っています。
43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		・ 写真掲載等、使用する際は都度確認をするようにしています。 ・ 写真を撮る際も個人情報に関わる情報が写真に写らないように確認をしています。個人を特定する情報が外部に伝わることはないようやり取りを注意しています。 ・ 書類等、個人ファイルを活用し、入れ間違いがないよう二重で確認をしています。スタッフ間でも個人情報について予測をした話をしたり、お互いに注意喚起を行っています。
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		・ お子さん一人ひとりにあった伝達方法を考え、やり取りをしています。その場の行動を見て伝わっていないと感じた時は、伝え方を変えて対応する等工夫しています。保護者様とも解釈の間違いがないよう細心の注意を払い、やり取りをするようにしています。情報伝達は、課題を感じるところでもありますので、情報の共有がお互いに行えるよう今後も工夫していきます。

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		・ 地域との交流として毎年心和田の郷にて秋祭りを開催しています。避難訓練や不審者対応訓練を行うなかで、地域の方、近隣の方と日頃からコミュニケーションを図る必要があると感じます。地域の方との交流、顔見知りになる場がもてるよう、事業所で何か催し物を開催する等考えていきたいと思います。今後も地域活動に積極的に協力し、開かれた事業所を目指していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1	・ 各マニュアルを策定しています。長期休暇前は緊急時や事故防止のマニュアル等を確認をした上で臨むようにしています。マニュアル(情報量)が増えて全ての把握が難しくなっている現状ではあります。保護者の皆さんに安心していただけるよう周知・訓練について日々改善に努めます。日々の生活のなかで身を守る行動は必要な事だと思いますので、各御家庭でも取り組んでいただきたいと思います。 ・ 去年震度5の地震を受け、情報源がスタッフの携帯しか取れず不安を感じました。現在は、ラジオを流し最新の情報が耳に入るよう過ごしています。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		・ 非常事態に備えて計画を策定しています。避難訓練については定期的に取り組んでいますが、その他の訓練についても様々な事案を想定し訓練をし、保護者様へ周知していきたいと思っています。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		・ 契約時にお子さんの医療状況(アレルギー)等も含め確認をしています。服薬等、事業所で扱う際は、投薬依頼書の提出をしていただいています。病院受診後、健康面(服薬)の聞き取りを行うようにしています。年度初めに発作の状況調査票・基本情報票の訂正をしていただき把握をしています。現在アレルギーのお子さんはいませんが、いつもと違うメニューの場合やレクリエーションの際は、事前に確認を取ったり、食べる際の配慮点をお聞きしたりしています。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		・ 安全計画を作成しています。日々の昼礼で活動やお子さんたちの動きを予測し、危険性はないか確認をスタッフ間で行っています。活動の場面でも、臨機応変に場の設定や対応を変え、安全を優先に過ごすようにしています。 ・ 設備関係についても、不具合がないか点検をしています。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1	・ 保護者様との連携のため連絡体制等、公式ライン(通信)にて周知しています。連携については、全ての御家庭と情報の共有ができていないと感じることもありますので、今後も非常時の対応の発信を続けていきます。

	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		・ お子さんと過ごすなかで危険につながる設備, 行動が見られた場合は早急にスタッフ間で共有し改善に努めています。翌日の昼礼時に振り返り, 対策等をはやと太陽の子と共有しています。日々お子さんたちの行動の把握(予測)をした上で支援にあたるようにしています。スタッフ間のコミュニケーション不足等, 人的な原因でヒヤリハットが起きないようにお互いに声を掛け合いながら連携を強化しています。お子さん方にも, 引き続き生活のなかで危険なことを話をしたり考える場を設けたりし, 安全に対する対応力を高めていきたいと思っています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		・ 毎年虐待防止・権利擁護の研修に参加しています。 ・ お子さんや保護者様からいただいた御意見からスタッフ間で振り返りをし, スタッフ個人個人意識しながら行動するようにしています。お子さん方のこだわりや苦手なことに対する支援方法については, 課題に直面するとストレスや不安を感じてしまうこともありますので, スタッフ同士様々なアイデアを出し支援の手立てを考えています。 ・ 3か月に1回虐待防止・身体拘束適正化委員会を開催し, 各事業所現状報告し体制の見直し等を行っています。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		・ 現在身体拘束の定義に当てはまるお子さんはいませんが, 緊急時の対応ややむを得ず行う必要がある場合については, 個別支援計画書の記載をし事前に保護者様へ説明をするようにしています。お子さんに対しても, 目標の意識付けのため支援内容の説明をし同意をいただいています。お子さんの支援について疑問を感じる点があった場合は, 管理者等会や虐待防止委員会で話をしています。